

諏訪大社ロータリークラブ Rotary

ROTARY CLUB OF SUWATAISHA WEEKLY

Vol. 17 1361 2025. 12. 9 12:30~13:30(創立 1993 年 6 月 1 日)

よいことの
ために
手を取りあおう

2025~2026 会長 五十嵐幹夫 幹事 栗原 等

■ 会長挨拶 五十嵐幹夫君

早いもので、今月で私の会長任期も折り返しとなりました。私たち諏訪大社ロータリークラブが主催するIMも来年2月に控えておりますので、後半もより一層気を引き締めて取り組んでまいりたいと思います。環境問題の中でも特に「地球温暖化」と二酸化炭素排出量について、少し科学的な数値を交えてお話したいと思います。世界では、CO₂削減のために化石燃料の使用削減、電気自動車の普及、太陽光・風力発電の拡大など、様々な取り組みが進められています。日本も「2050年カーボンニュートラル」を掲げていますが、そのためには150兆円以上という国家予算を上回るほどの大きな投資が必要と言われています。しかし、私たちは“イメージ”だけでなく、数字に基づいて考えることも大切です。まず、産業革命前(1960年代)の世界の平均CO₂濃度は約 280ppm。そして現在は424ppm。確かに「1.5倍になった」と言われると大きな変化に聞こえますが、実際には144ppmの増加、割合で見ると0.0144%の増加にすぎません。数字の表現方法で、受ける印象は大きく変わります。そしてこの約60年の間に、世界の平均気温は約0.9度上昇しました。では、日本が2050年にCO₂排出を完全にゼロにした場合、地球温度にどれほど影響すると思われますか？ある試算では、わずか0.004度という結果が出ています。150兆円以上を投じ、しかも実際には“完全ゼロ”は不可能であるにも関わらず、影響はその程度ということです。さらに、メガソーラーによる森林伐採や、それが引き金となる土石流の発生、パネルの耐用年数を超えた後に風化した有害物質の飛散など、別の環境リスクも存在します。もちろんリサイクルは必要ですが、そのコストも無視できません。こうした現実を見ると、私たちは“周りの雰囲気”や“誰かの主張”だけで判断するのではなく、「それは本当に真実か」「社会全体の利益になるのか」という視点で、もう少し深く考える必要があるのだと思います。もちろん、CO₂排出量の削減そのものは大切です。しかし、ロータリアンとして、そして地域社会の一員として、冷静に事実を見つめ、未来のために最も良い選択は何かを考える姿勢こそ求められているのではないのでしょうか。

■ 理事会報告・幹事報告 栗原 等君

- ◇ 本日の例会は、IM実行委員会を行います。
- ◇ 例会開始に先立ちまして役員、理事の定数改定に伴う細則の改定を議題として臨時年次総会を行い、その後通常年次総会を開催いたします。
- ◇ 12月7日地区補助金セミナーがWEBで開催されました。
- ◇ 第8回理事役員会で、市村忠勝さんの新会員推薦が承認されました。疑義のある方は1週間以内に書面にて理事役員会に提出願います。
- ◇ 永田英敬君の退会届が提出され受理されました。幹事一任で永田君の承諾を得たのち慰労会を開催したいと思います。

■ 出席報告・ニコニコBOX

出 席		ニコニコ BOX	
会員数	35 名	利用者数	18 名
出席対象	35 名	今回の金額	23,000 円
出席者	24 名	今年度累計	498,000 円
出席率	68.6%	今年度目標額	90 万円
今年度出席率	72.0%	達成率	55.3%



■ 12 月例会プログラム・行事予定

12/16(木)	1362回	家族例会	クリスマスパーティー(スパダ)
12/23(火)		指定休日	
12/30(火)		指定休日	

■ 1 月例会プログラム・行事予定

1/6(火)		指定休日	
1/11(日)	1363回	移動例会	初詣・餅つき
1/13(火)		振替休日	
1/20(火)	1364回	通常例会	IM実行委員会
1/27(火)	1365回	夜間例会	ガバナー補佐訪問・新年間